



# Risk Flash No.160 (Vol.5 No.2)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- ご挨拶：滋賀大学経済学部長の就任にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・ Page 1
- 論文紹介：国内乗用車の販売構成比推移の予測－マルコフ連鎖モデルによるシミュレーション－・・・・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Page 3

## ご挨拶

### 滋賀大学経済学部長の就任にあたって

おぐらあきひろ  
経済学部長 小倉明浩

平成 26 年 4 月より経済学部長に就任いたしました。

昨年度は、経済学部設立 90 周年にあたり、記念事業・募金へのご協力を頂きましたこと衷心よりお礼申し上げます。本誌 158 号におきまして前学部長梅澤よりお礼申し上げたところでございますが、あらためまして本職よりもお礼申し上げます。

さて、グローバル競争が激化する国際社会の中にあって、知の拠点としての大学の機能の一層の充実が求められています。文部科学省は、平成 25 年から 27 年度を「国立大学改革加速期間」とし、各大学がその特長を活かして機能を強化する方向での自主的改革の推進を求めています。そこでのキーワードは、「グローバル化への対応」と「イノベーションの創出への貢献」です。国立大学には、日本における大学教育・研究をリードしモデルとなること、また地域における大学教育・社会連携のモデルとなることが求められております。

リスク研究センターは、平成 15 年に滋賀大学経済学部が 80 周年を迎えた際に、まさに滋賀大学がそのような役割を果たしていくための拠点として設立が企画され、陵水会（滋賀大学経済学部同窓会）を始め社会各層の皆様のご支援を基に開設されたものであります。その設立趣旨を具現すべく、リスク研究センターは、滋賀大学経済学部が全国に誇る研究とその成果の世界への発信、そして社会への還元を遂行してまいりました。今お読みいただいている週刊でのメール・マガジン「リスクフラッシュ」は、滋賀大学のリスク関連研究の成果と活動の現状、社会の動向に関する滋賀大学スタッフの視点からの論評、リスク研究センターの活動をお伝えしておりますが、このような取り組みは他大学にもあまり例がなく、高く評価されているところであります。また国際共同研究や国際セミナーの開催においても、独自性と特色を打ち出すことを目指して活動を進めています。

そのような点で、リスク研究センターの活動は、滋賀大学経済学部の際立つ特色として誇るべきものであると考えており、「改革加速期間」における滋賀大学の改革の展開基軸となる機関として位置づけているところであります。またこの「リスクフラッシュ」を、皆様と滋賀大学経済学部をつなぐ広く重厚なネットワークを築き支えるものとして、一層成長させてまいりたいと考えております。

今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 論文紹介

### 国内乗用車の販売構成比推移の予測 —マルコフ連鎖モデルによるシミュレーション—

著者：滋賀大学経済学部 准教授 岡本哲弥  
 収録：『商品開発・管理研究』Vol. 9、No. 2、pp. 2-19、  
 2013年3月発行



#### 概要：

本論文は、マルコフ連鎖モデルを用いて、国内乗用車の販売構成比の推移を予測したものです。自動車の消費行動に関する調査を2010年2月にインターネット・リサーチによって実施しました。この調査で得られた乗用車所有状況と次期の購入意向のデータに基づき、シミュレーションを行ったのですが、その結果はおおよそ次の3点に要約することができます。

第1に、自動車メーカー別には、トヨタとホンダがシェアを伸ばすこと、ボディ・タイプ別には軽自動車やハッチバック・コンパクトの小型車がシェアを落とし、一方でセダンがシェアを回復し、ミニバンのシェアは高い水準を継続すること、3ナンバー車のシェアが上がるとともに、価格帯では全体的に上昇傾向にあることです。

第2に、次世代自動車の販売割合は2021年には46%、2029年には51%という結果が導かれ、政府の次世代自動車の普及目標（2020年；20～50%、2030年；50～70%）は達成されそうです。

最後に、動力形態別の均衡確率は、自動車エンジンの環境対応のイノベーションの必要性を示唆しています。

#### 著者のつぶやき

2010年当時は、ハイブリッド車や電気自動車などの次世代自動車の主導権をめぐって、自動車メーカーが激しく競争を展開し始めた頃です。政府はエコカー普及に向けたさまざまな助成・促進制度を導入し、経済産業省は温室効果ガスの削減のため、2020年に次世代自動車の普及目標を打ち出しました。以降の次世代自動車の方向性を見出すには、企業サイドの取り組み、国や自治体による政策はもちろん重要ですが、加えて消費者の乗用車の購買意向を合わせて理解しなければ自動車需要の変化を予測するのは困難です。このような問題意識から、本シミュレーションに至った訳です。

さて、2010年の調査から4年が経過した今、シミュレーション結果を振り返ってみましょう。今年の1月9日付けの日経新聞によれば、2013年の販売比率は、軽自動車で4割(39.3%)、ハイブリッド車では17.3%になっています。現実とシミュレーション結果の最も大きい乖離は、軽自動車にあります。シミュレーションによれば、ハイブリッド車など次世代自動車にもっとシフトするとみられたのですが、現実には軽自動車へのシフトがさらに進んだのです。軽自動車のデザインや燃費が飛躍的に向上したことが要因でしょう。あらためて予測の難しさを痛感しているところですが、数年後に本論文の結果の妥当性を検証したいと思います。

需要予測やシミュレーションは、何らかの手掛かりを前提条件として将来を見通すことですから、その条件の変化によって現実との乖離やズレが生じることはやむを得ません。しかし、ただ闇雲に考えるよりも、その前提条件を丁寧に見直していけば、マーケティング戦略立案などにも役立つはずで

## リスク研究センター通信

### ①リスクフラッシュ編集委員紹介

H26年度、皆様にリスクフラッシュをお届けしてまいります編集委員を紹介させていただきます。

(カッコ内は所属と専門)

久保 英也

(センター長・ファイナンス学科 保険・リスクマネジメント)

ロバート・アスピノール

(副センター長・社会システム学科 教育制度・政治制度比較)

大村 啓喬

(社会システム学科 国際紛争)

菊池 健太郎

(ファイナンス学科 金融工学)

金 秉基

(経済学科 国際開発政策)

柴田 淳郎

(企業経営学科 経営戦略、会社制度)

得田 雅章

(経済学科 経済統計学、財政学・金融論、応用経済学)

山田 和代

(経済学科 戦後日本労働史、労働のジェンダー分析)

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### ②経済学部卒業記念品「ふくさ」

経済学部の就業力育成支援室では、産学連携による様々な革新的プロジェクト科目を開発し、実施しています。その中で、実践的インターンシッププログラムとして、経済学部三回生(平成26年3月時)の小関加奈さんが、受入先企業の和装小物会社「清原」(守山市)と、若者向け「ふくさ」を共同開発しました。その「ふくさ」は経済学部の卒業記念品の選定を行う学生会へ提案され、経済学部卒業生に贈られました。

詳細は、

<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1577&r=0> をご覧ください。

### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

\*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

( <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3/12> )

\*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

**発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター**

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、  
柴田淳郎、得田雅章、宮西賢次、山田和代**

**滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局** (Office Hours:月一金 10:00-17:00)  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

**e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)**

**Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>**